

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ハニーバジャー・エクストリーム 2022	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.540	△RG 0.048	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ハニーバジャー・エクストリーム 2022

フレアーの幅
[] インチ

PAPからピンとの距離
4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

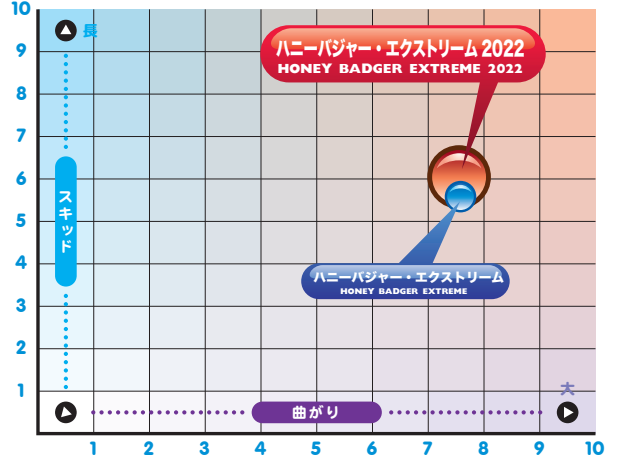
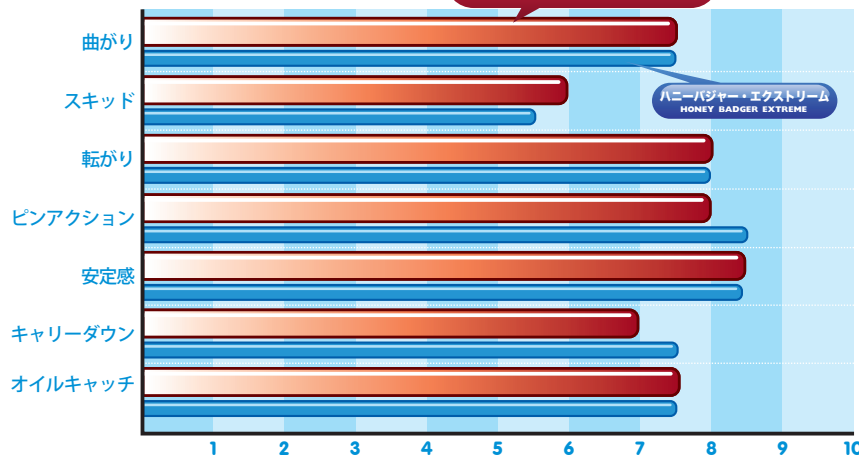
比較対照ボール：ハニーバジャー・エクストリーム

フレアーの幅
[] インチ

PAPからピンとの距離
4-1/2 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レングス
Light Oil Light to Medium Medium Oil Medium to Heavy Heavy Oil	Smooth Smooth to Arc Arc Arc to Sharp Sharp Angle	Early Roll Early to Med Med-Lane Med to Late Late Roll

ボールの評価

前作、HONEY BADGER EXTREMEは、900GLOBALで鉄板と言えるS74Rをカバーストックに搭載し、HONEY BADGER シリーズ最高の”神ボール”として高い評価を得ました。今までS74RカバーストックはGEARシリーズに使用され、いずれも高い評価を受けていましたが、HONEY BADGER シリーズのGrapnel 2.0AsymmetricコアとS74Rカバーストックとの相性は日本のポウラーのハートをがっちり掴み、これまでのHONEY BADGER シリーズの可能性を飛躍的に高めたと言えるでしょう。今回のHONEY BADGER EXTREME 2022は前作と同じPearl素材の発売ですが、添加剤の配合率を調整し、走りやバックエンドの動きを強調させたバージョンで発売致します。

テストングのイメージですが、同じパール素材でも今回の方が、よりPearlらしいと感じました。ある意味前作の方がPearlらしくない強さを感じていたため、双方投げ比べると走り感がやや良くなった印象を受けます。走りが良くなっている分ドライエリアにかかった時の動きの俊敏さは明瞭になり、動きの鋭さは前作を上回ります。

HONEY BADGER EXTREMEは日本のユーザーは先の動きが「切れる」イメージを持てるからこそ”持っておきたいボール”として位置づけられていると思いますが、ただ曲がるだけでなく走りの中にも安定感のあるキャッチと、奥の動きの良さと同時にピンキャリアの良さも出ているからこそ、多くのユーザーに求められるバランスの良さも出ていてトータル的な評価が高くなることは言うまでもありません。先の動きを強調させながらもS74Rカバーストックで安定したキャッチを供給し、高いレベルでの「切れ」。それがHONEY BADGER EXTREMEシリーズと言えるでしょう。

特記事項

日本で大人気のHONEY BADGERシリーズの最新作は、前回よりも走りや奥の動きのメリハリ感が強くなりました。先の動きを求めるポウラー必見のスペックです。